

札幌市立真駒内公園小学校の取組【雪に関する教育課程】

1 研究のねらい

本校では、毎年3年生が校区内の町内会行事「ゆきあかりキャンドルロード」に参加している。開校時、札幌市の重点でもある「雪に関する活動」をどのように本校の教育課程に位置付けるかを模索していた。また、町内会では高齢化が進んできて、長年行われてきた「ゆきあかりキャンドルロード」行事への参加者が減ってきており、何とか活性化したいという願いがあった。さらに開校以来、他人を思いやる気持ち、自分を大切にする心などの「人権教育」に取り組んできた本校では、「雪」の活動を通して、地域の方とふれあい、地域への愛着をもち、人や地域を大切にする心を育んでいきたいという願いがあった。町内会としては、地域の中で子どもたちを育て、子どもたちと交流することで、町内会行事の活性化を図りたいという思いが見事に合致してこの活動が始まり、その後も継続して活動を進めている。

2 取組内容

(1) 「ゆきあかりキャンドルロード」の準備をしよう

① 雪像づくり

当日に向けて2回、会場に出向き子どもたちが雪像づくりを行った。最初に地域の方から感謝の言葉をいただき、子どもたちのやる気が高まり、グループ毎に雪像づくりが始まった。事前につくるものを決めてあり、子どもたちはグループで協力して雪を積み、削り始め、雪像づくりを行った。1回目は、昨年と違って気温が低く、雪が固まりづらく、水を使って雪を固めていた。地域の方もお手伝いしてくださったり、温かく見守ってくださったりしていた。

2回目も、大変寒く、雪が固まりにくい条件であったが、子どもたちは水を使ってツルツルにしたり、色を付けたりして、カラフルな雪像を作っていた。最後に、みんなで他のグループの雪像を見て交流を深めた。



(2) 「ゆきあかりキャンドルロード」に参加しよう

① スノーキャンドルづくり

土曜日の午前中の2時間を使って、スノーキャンドルづくりを行った。土曜日であったが、多くの子どもたちが参加した。町内会の方から作り方を教えていただいた後、グループ



ごとに作り始めた。最初は、崩れたり、穴が小さすぎたりして苦勞をしていたが、水を使って、雪を固めて作り続けていくうちに、コツを覚え、上達してきた。子どもたちが作っている横で、地域の方もスノーキャンドルづくりを行い、お互いに声を掛け合って作るグループもあった。多くのスノーキャンドルが並んでいるのを見て、点灯したスノーキャンドルへの興味が高まっていた。



② 点灯後のキャンドルロード

夕方、16時30分からスノーキャンドルに点灯を始めた。子どもたちが、キャンドルに火をつけていった。スノーキャンドルの横には、子どもたちが作った五七五の川柳があり、子どもたちは、早速自分の川柳を探していた。保護者は我が子の川柳を読み、記念写真を撮る様子が多々見られた。点灯時は、まだ明るい時間であったが、だんだん暗くなってきて、キャンドルの灯りがゆらめくと、とても幻想的な雰囲気にもまれていた。多くの子どもたち、保護者、地域の方もたくさん訪れていた。



3 成果と課題

(1) 成果

子どもたちは地域の方と一緒に活動することで、人と触れ合うよさを実感し、改めて地域の大切さを感じることができた。子どもたちがつくった雪像、スノーキャンドルを見た地域の方が「すばらしい」「きれい」と言ってくれたことを直接、耳で聞き、地域の方の声を実感できた。さらに、3年生の子どもたちは学校の代表として行事に参加したという意識も強くもっており、地域に貢献したという思いも強く感じている。地域の方からも、多くの子どもたちの参加に対して、感謝の言葉があり、子どもたちは自分たちの活動に自信をもち、自尊感情を高めることができた。また、来年は「自分たちの番」という思いを強くもって、地域の活動に参加している2年生も見られた。土曜日にもかかわらず、本校児童、地域の方の参加者数が昨年より増えたと思われる。

このように、本校の実践している「人権教育」と「雪」の活動を組みあわせて、多くの地域の方と交流できたことが大きな成果である。また、子どもたちと触れ合える貴重な地域行事を継続したいと願っている地域の方の熱い思いも強く感じることができた。

(2) 課題

雪像をつくる公園が、学校から少し離れているため、安全確保や道具を運搬する人員、車両の確保が必要である。また、町内会行事が土曜日実施のため、参加できない子どももいる。点灯時刻が夜であるので、保護者同伴が原則であるが家庭の用事によって参加できずに、点灯したスノーキャンドルを見られないのを残念がる子どももいた。さらに外での活動のために、天候や気温に左右され、児童の体調管理も重要である。